

旧陸軍習志野学校跡地内から発見された老朽化した 「あか筒」の可能性のある物体の処理等について

1. これまでの経緯

平成 21 年 10 月に、旧陸軍習志野学校跡地内の民有地において、老朽化した「あか筒」らしき物体が計 61 個発見されたことから、周辺土壌も含めてこれらを回収し、密封措置したうえで一時保管した。

2. 発見された「あか筒」の可能性のある物体の概要

当該物体は、比較的形状を維持しているケースの場合、直径約 11cm、長さ約 21cm 程度の円筒形をしているが、老朽化による破損が著しい状況で発見された。

発見された物体は、その外観的特徴に加え、旧陸軍習志野学校跡地内から発見されたことから、旧軍の「あか筒」(有機ヒ素化合物であるジフェニルシアノアルシンを充填したくしゃみ剤の発煙筒：別紙参照)である可能性が高い。

なお、今回発見された「あか筒」の可能性のある物体に対して、金属探知機は反応を示さなかった。その理由としては、金属部分が少ないことが考えられる。今回の調査により、地中にある「あか筒」の可能性のある物体は、金属探知機では確認できないことが判明した。

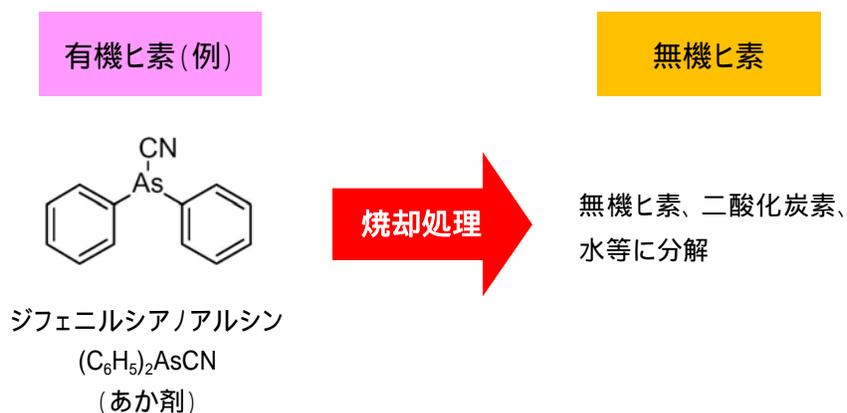


写真 土中から発見された「あか筒」の可能性のある物体

3. 発見された「あか筒」の可能性のある物体等の処理について

今回発見された物体は、旧軍の有毒発煙筒である「あか筒」である可能性が高く、あか剤に関連した有機ヒ素化合物を含有している可能性がある。しかし、廃棄物の

処理において、これらあか剤関連の有機ヒ素化合物自体の基準値は存在しないため、当該有機ヒ素化合物を焼却によって無機化し、総ヒ素の溶出量が管理型処分場に係る埋立基準値(0.3mg-As/L未満)を満足させた上で、管理型処分場に埋立処分することとする。



このため、当該物体及び回収した土壌については、今後、有機ヒ素化合物に汚染された土壌等の処理実績を有する産業廃棄物処理施設において焼却処理等を実施する予定である。

旧軍のあか筒について

あか筒は、筒状の容器にあか剤（くしゃみ剤：ジフェニルシアノアルシン）と加熱剤等が充填され、点火薬に着火するとあか剤が加熱され、これが微粒子となって煙状に拡散するという構造を有する有毒発煙筒である。また、あか筒は万一手で触れても、問題をおこすものではない。

なお、あか筒に充填されたあか剤は常温では固体であり、熱を加えない限り微粒子となって拡散することはない。

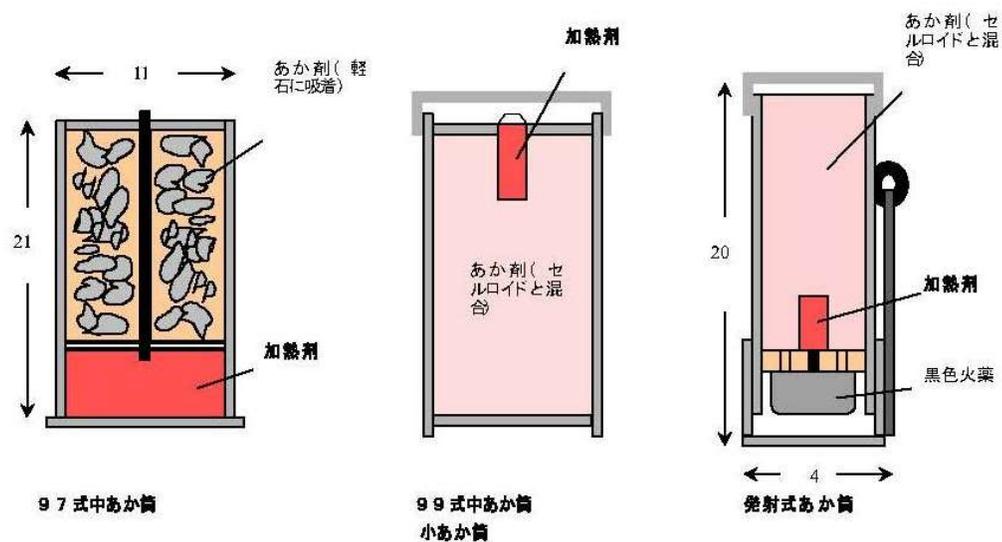


図1 各種あか筒の構造

（出典：日本学術会議「遺棄化学兵器の安全な廃棄技術に向けて」平成13年7月23日）

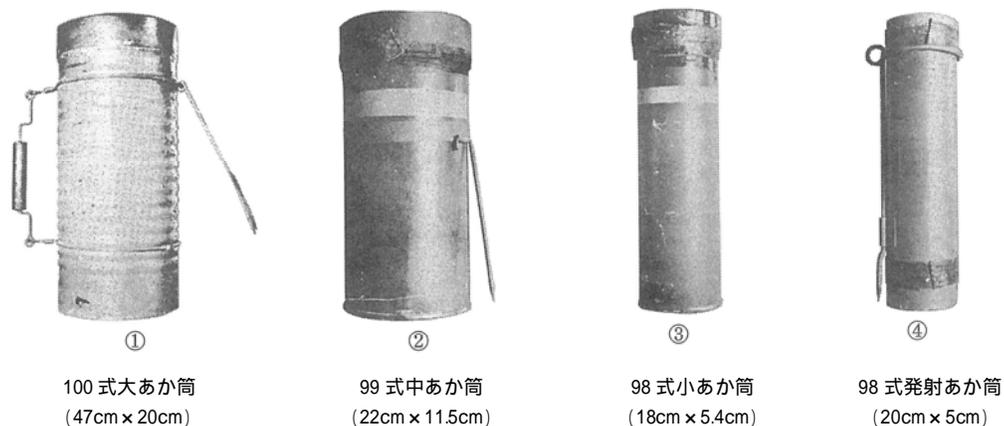


図2 各種あか筒の写真（米軍撮影）

（出典：吉見義明『毒ガス戦と日本軍』岩波書店、平成16年刊）